

平成 22 年 9 月改定版

表 4-1 工事管理項目 (2/4)

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
基礎情報	その他フォルダ名	その他資料を格納するために「OTHERS」フォルダを作成した場合はフォルダ名称(OTHERS で固定)を記入する。	半角英数大文字	5 固定	▲	○	
	その他オリジナルファイルフォルダ情報※ その他オリジナルファイルフォルダ名	その他オリジナルファイルを格納するフォルダ名称(OTHERS/ORG001~nnn)を記入する(nnn は連番を示す)。その他オリジナルファイルフォルダがある場合は必ず記入する。	半角英数大文字	12 固定	▲	◎	
	その他オリジナルファイルフォルダ日本語名	その他オリジナルファイルを格納するフォルダの日本語名称を記入する。	全角文字 半角英数字	127	▲	◎	
工事件名等	発注年度	工事の発注年度を西暦 4 桁で記入する。	半角数字	4 固定	□	◎	
	工事番号	地方整備局単位で設定している CCMS 設計書番号(数字 8 桁~16 桁)を記入する。	半角英数字	127	□	◎	
	工事名称	契約図書に記載されている正式の工事名称を記入する。	全角文字 半角英数字	127	■	◎	
	工事実績システム登録番号	CORINS センターが発行する受領書に記載される番号を記入する。CORINS 登録番号がない工事は「0」を記入する。	半角英数字 - (HYPHEN-MINUS)	11	■	◎	
	工事分野	CORINS の「公共事業の分野」に従って記入する。	全角文字 半角英数字	16	■	◎	
	工事業種	CORINS の「本件登録工事の入札参加資格区分」に従って記入する。	全角文字 半角英数字	16	■	◎	
	工種・工法型式※	工種	CORINS の「工種、工法・型式」の「工種」を記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	■	◎
		工法型式	CORINS の「工種、工法・型式」の「工法・型式」を記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	■	◎
	住所情報※	住所	該当地域の住所を記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	工期開始日	工期の開始日の年月日を CCYY-MM-DD 方式で記入する。月または日が1桁の数の場合「0」を付加して、必ず 10 桁で記入する。(CCYY:西暦の年数、MM:月、DD:日) 例平成 20 年 11 月 1 日 → 2008-11-01	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	10 固定	■	◎	
工期終了日	工期の終了日の年月日を CCYY-MM-DD 方式で記入する。月または日が1桁の数の場合「0」を付加して、必ず 10 桁で記入する。(C「CY:西暦の年数、MM:月、DD:日) 例平成 21 年 3 月 31 日 → 2009-03-31	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	10 固定	■	◎		
工事内容	工事概要及び主工種とその数量を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎		

差し替え案

表 4-1 工事管理項目 (2/4)

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
基礎情報	その他フォルダ名	その他資料を格納するために「OTHERS」フォルダを作成した場合はフォルダ名称(OTHERS で固定)を記入する。	半角英数大文字	5 固定	▲	○	
	その他オリジナルファイルフォルダ情報※ その他オリジナルファイルフォルダ名	その他オリジナルファイルを格納するフォルダ名称(OTHERS/ORG001~nnn)を記入する(nnn は連番を示す)。その他オリジナルファイルフォルダがある場合は必ず記入する。	半角英数大文字	12 固定	▲	◎	
	その他オリジナルファイルフォルダ日本語名	その他オリジナルファイルを格納するフォルダの日本語名称を記入する。	全角文字 半角英数字	127	▲	◎	
工事件名等	発注年度	工事の発注年度を西暦 4 桁で記入する。	半角数字	4 固定	□	◎	
	工事番号	地方整備局単位で設定している CCMS 設計書番号(数字 8 桁~16 桁)を記入する。	半角英数字	127	□	◎	
	工事名称	契約図書に記載されている正式の工事名称を記入する。	全角文字 半角英数字	127	■	◎	
	工事実績システム登録番号	CORINS センターが発行する受領書に記載される番号を記入する。CORINS 登録番号がない工事は「0」を記入する。	半角英数字 - (HYPHEN-MINUS)	11	■	◎	
	工事分野	CORINS の「公共事業の分野」に従って記入する。	全角文字 半角英数字	16	■	◎	
	工事業種	CORINS の「本件登録工事の入札参加資格区分」に従って記入する。	全角文字 半角英数字	16	■	◎	
	工種・工法型式※	工種	CORINS の「工種、工法・型式」の「工種」を記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	■	◎
		工法型式	CORINS の「工種、工法・型式」の「工法・型式」を記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	■	◎
	住所情報※	住所	該当地域の住所を記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	住所情報※	住所コード	該当地域の住所コードを記入する。該当がない場合は「99999」とする。(複数記入可)	半角数字	5 固定	□	◎
住所		該当地域の住所を記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	◎	
工期開始日	工期の開始日の年月日を CCYY-MM-DD 方式で記入する。月または日が1桁の数の場合「0」を付加して、必ず 10 桁で記入する。(CCYY:西暦の年数、MM:月、DD:日) 例平成 20 年 11 月 1 日 → 2008-11-01	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	10 固定	■	◎		
工期終了日	工期の終了日の年月日を CCYY-MM-DD 方式で記入する。月または日が1桁の数の場合「0」を付加して、必ず 10 桁で記入する。(C「CY:西暦の年数、MM:月、DD:日) 例平成 21 年 3 月 31 日 → 2009-03-31	半角数字 - (HYPHEN-MINUS)	10 固定	■	◎		
工事内容	工事概要及び主工種とその数量を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎		

平成 22 年 9 月改定版

表 4-1 工事管理項目 (4/4)

分類・項目名	記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
施設情報 施設名称	施設名称を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	○	
発注者情報 発注者-大分類	CORINS の「発注機関名・中分類」に従い、発注者の官庁名、団体名等を記入する。	全角文字 半角英数字	16	■	◎	
	発注者-中分類	CORINS の「発注機関名・小分類」に従い、発注者の局名、支社名等を記入する。	全角文字 半角英数字	32	■	◎
	発注者-小分類	CORINS の「発注機関名・細分類」に従い、記入する。「発注機関名・細分類」が空白の場合は、記入は不要とする。	全角文字 半角英数字	30	■	○
	発注者コード	発注機関の発注者のコードを記入する。	半角数字	8 固定	□	△
受注者情報 受注者名	受注者名の正式名称を記入する。JV の場合には、JV の正式名称及び代表会社名を続けて記入する。	全角文字 半角英数字	127	■	◎	
	受注者コード	発注者が定める受注者コードを記入する。国土交通省では各地方整備局で受注者コードを整備している。	半角数字	□	○	
予備	特記事項がある場合に記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△	
ソフトウェア用 TAG	ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△	

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

- 【記入者】 ■ : CORINS から出力される XML ファイル(CORINS 提出用ディスクのファイルフォーマット)から取り込むことが可能な項目。
 □ : 電子成果品作成者が記入する項目。
 ▲ : 電子成果品作成支援ツール等が自動的に記入する項目。
- 【必要度】 ◎ : 必須記入。
 ○ : 条件付き必須記入。(データが分かる場合は必ず記入する)
 △ : 任意記入。

※複数ある場合にはこの項を必要な回数繰り返す。

差し替え案

表 4-1 工事管理項目 (4/4)

分類・項目名	記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
施設情報 施設名称	施設名称を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	○	
発注者情報 発注者-大分類	CORINS の「発注機関名・中分類」に従い、発注者の官庁名、団体名等を記入する。	全角文字 半角英数字	16	■	◎	
	発注者-中分類	CORINS の「発注機関名・小分類」に従い、発注者の局名、支社名等を記入する。	全角文字 半角英数字	32	■	◎
	発注者-小分類	CORINS の「発注機関名・細分類」に従い、記入する。「発注機関名・細分類」が空白の場合は、記入は不要とする。	全角文字 半角英数字	30	■	◎
	発注者コード	発注機関の発注者のコードを記入する。	半角英数字	127	□	◎
受注者情報 受注者名	受注者名の正式名称を記入する。JV の場合には、JV の正式名称及び代表会社名を続けて記入する。	全角文字 半角英数字	127	■	◎	
	受注者コード	発注者が定める受注者コードを記入する。国土交通省では各地方整備局で受注者コードを整備している。	半角数字	□	○	
予備	特記事項がある場合に記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△	
ソフトウェア用 TAG	ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△	

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

- 【記入者】 ■ : CORINS から出力される XML ファイル(CORINS 提出用ディスクのファイルフォーマット)から取り込むことが可能な項目。
 □ : 電子成果品作成者が記入する項目。
 ▲ : 電子成果品作成支援ツール等が自動的に記入する項目。
- 【必要度】 ◎ : 必須記入。
 ○ : 条件付き必須記入。(データが分かる場合は必ず記入する)
 △ : 任意記入。

※複数ある場合にはこの項を必要な回数繰り返す。

平成 22 年 9 月改定版

【解説】

- (1) 基礎事項
 - ・ 工事管理項目は、ルート直下の各フォルダに格納された電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
 - ・ 工事管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
 - ・ 付属資料 1 に管理ファイルの DTD、付属資料 2 に管理ファイルの XML 記入例を示す。
 - ・ CORINS(コリンズ : COstruction Records Information Service)は、「工事实績と技術者のデータベース」であり、公共工事の一般競争入札方式等の入札・契約手続きを支援する。
- (2) 場所に関わる情報の記入 (詳細は付属資料 3 参照)
 - 1) 「住所」(必須記入項目)

住所は設計図書等に指示されている住所、地名(〇〇事務所管内、〇〇川流域など)を含め、該当地域の住所を記入する(複数記入可)。文字コードは全角文字・半角英数字を標準とし、全角英数字は用いない。また、原則として住所に俗称は用いない。
 - 2) 場所情報

場所情報については、特定の場所・地域によらない工事を除き「境界座標」を必ず記入する。水系・路線により場所が示される工事においては「測点」または「距離標」のいずれかを記入することができる。また、「測点」及び「距離標」は「対象水系路線名」、「対象河川コード」(いずれも複数記入可)の件数に対応して複数記入することができる。

 - (A) 測点

工事対象となる起点側測点及び終点側測点を測点番号(n)及び測点からの距離(m)の組み合わせで記入する(複数記入可)。
 - (B) 対象水系路線名

対象水系路線名は対象水系路線名の情報がある場合に記入する。
 - (C) 現道・旧道区分

現道・旧道区分は、「道路管理関係デジタル道路地図データベース標準 第 3.0 版 平成 15 年 4 月 財団法人 日本デジタル道路地図協会」に準拠し、「現道 : 1」、「旧道 : 2」、「新道 : 3」、「未調査 : 0」のいずれかを記入する。

差し替え案

【解説】

- (1) 基礎事項
 - ・ 工事管理項目は、ルート直下の各フォルダに格納された電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
 - ・ 工事管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
 - ・ 付属資料 1 に管理ファイルの DTD、付属資料 2 に管理ファイルの XML 記入例を示す。
 - ・ CORINS(コリンズ : COstruction Records Information Service)は、「工事实績と技術者のデータベース」であり、公共工事の一般競争入札方式等の入札・契約手続きを支援する。
- (2) 場所に関わる情報の記入 (詳細は付属資料 3 参照)
 - 1) 「住所コード」(必須記入項目)

住所コードは工事対象地域が位置する都道府県または市区町村を表し、JIS X0401 (都道府県コード : 2 桁) と JIS X0402 (市区町村コード : 3 桁) を組み合わせて 5 桁の数字を記入する。海外の場合は「50」(固定) と JIS X0304 (国名コード) の数字 3 桁を組み合わせて 5 桁とする。工事対象地域が複数の市区町村にまたがる場合は、該当する市区町村コードを全て記入する(複数記入可)。工事対象地域の境界が判定し難い場合は、わかる範囲で記入する。また、工事対象地域の範囲により、市区町村コード・都道府県コードを選択して記入する。特定の地域に該当しない工事については、「99999」(対象地域なし)を記入する。住所コードを都道府県レベルで表す場合は、全 5 桁の住所コードのうち市区町村コード部(下 3 桁)を「000」として記入する。

(例) 兵庫県全域を表す住所コード :

28000
都道府県コード
市区町村コード
 - 2) 「住所」(必須記入項目)

住所は設計図書等に指示されている住所、地名(〇〇事務所管内、〇〇川流域など)を含め、該当地域の住所を記入する(複数記入可)。文字コードは全角文字・半角英数字を標準とし、全角英数字は用いない。また、原則として住所に俗称は用いない。
 - 3) 場所情報

場所情報については、特定の場所・地域によらない工事を除き「境界座標」を必ず記入する。水系・路線により場所が示される工事においては「測点」または「距離標」のいずれかを記入することができる。また、「測点」及び「距離標」は「対象水系路線名」、「対象河川コード」(いずれも複数記入可)の件数に対応して複数記入することができる。

平成 22 年 9 月版

(D) 対象河川コード

対象河川コードは「河川コード仕様書 国土交通省河川局」に準拠し発注者が指示する河川コードを記入する。(複数記入可)。なお、河川コードを記入する場合は左右岸コードを併せて記入する。

(E) 左右岸上下線コード

場所情報として距離標を記入する場合は、河川の左岸・右岸等の別または道路の上下線の別を示す左右岸上下線コードを記入する。

(河川)00：不明、01：左岸、02：右岸、03：中州 99：その他

(道路)00：不明、10：上り線、20：下り線、30：上下線共通 99：その他

*左右岸コードは「河川基盤地図ガイドライン(案) 第2.1版 平成13年12月 国土交通省河川局河川計画課」に準拠している。

*上下線コードは「道路管理関係デジタル道路地図データベース標準 第3.0版 平成15年4月 財団法人 日本デジタル道路地図協会」に基づき左右岸コードとのコードの重複を避けるため「0」を付加して桁上げしている。

*「99：その他」は水部・河川敷部外、車道部外等の場合に適用する。

(F) 距離標

工事対象となる起点側距離標及び終点側距離標について、起点側からの距離「〇〇〇km」「△△△m」を各々「距離標-n」及び「距離標-m」として記入する(複数記入可)。

(G) 境界座標(必須記入項目)

「境界座標」は世界測地系(日本測地系 2000)に準拠する。その範囲は対象範囲を囲む矩形の領域を示し、西側及び東側の経度と北側及び南側の緯度を各々度(3桁)分(2桁)秒(2桁)で表される7桁の数値を記入する。特定の地域に該当しない工事については、「99999999」(対象地域なし)を各項目に記入する。「境界座標」は「対象領域の外側」を記入する。なお、対象領域が南緯及び西経の場合は頭文字に「-」(HYPHEN-MINUS)を記入する。

(H) 発注者コード

発注者コードで検索が必要な場合に入力する。どのコードを利用するかは発注者の指示によるが、国土交通省の工事では入力する必要はない。

差し替え案

(D) 対象河川コード

対象河川コードは「河川コード仕様書 国土交通省河川局」に準拠し発注者が指示する河川コードを記入する。(複数記入可)。なお、河川コードを記入する場合は左右岸コードを併せて記入する。

(E) 左右岸上下線コード

場所情報として距離標を記入する場合は、河川の左岸・右岸等の別または道路の上下線の別を示す左右岸上下線コードを記入する。

(河川)00：不明、01：左岸、02：右岸、03：中州 99：その他

(道路)00：不明、10：上り線、20：下り線、30：上下線共通 99：その他

*左右岸コードは「河川基盤地図ガイドライン(案) 第2.1版 平成13年12月 国土交通省河川局河川計画課」に準拠している。

*上下線コードは「道路管理関係デジタル道路地図データベース標準 第3.0版 平成15年4月 財団法人 日本デジタル道路地図協会」に基づき左右岸コードとのコードの重複を避けるため「0」を付加して桁上げしている。

*「99：その他」は水部・河川敷部外、車道部外等の場合に適用する。

(F) 距離標

工事対象となる起点側距離標及び終点側距離標について、起点側からの距離「〇〇〇km」「△△△m」を各々「距離標-n」及び「距離標-m」として記入する(複数記入可)。

(G) 境界座標(必須記入項目)

「境界座標」は世界測地系(日本測地系 2000)に準拠する。その範囲は対象範囲を囲む矩形の領域を示し、西側及び東側の経度と北側及び南側の緯度を各々度(3桁)分(2桁)秒(2桁)で表される7桁の数値を記入する。特定の地域に該当しない工事については、「99999999」(対象地域なし)を各項目に記入する。「境界座標」は「対象領域の外側」を記入する。なお、対象領域が南緯及び西経の場合は頭文字に「-」(HYPHEN-MINUS)を記入する。

(H) 発注者コード

発注者コードは、で検索が必要な場合に入力する。どのコードを利用するかは発注者の指示に従って記入する。よるが、国土交通省の工事では入力する必要はない。

平成 22 年 9 月版

```
<!ELEMENT 工期終了日 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 工事内容 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 工種-工法型式 (工種+, 工法型式+)>
  <!ELEMENT 工種 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 工法型式 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 住所情報 (住所+)>
  <!ELEMENT 住所 (#PCDATA)>

<!— 場所情報 —>
<!ELEMENT 場所情報 (測地系, 水系-路線情報*, 境界座標情報)>
<!ELEMENT 測地系 (#PCDATA)>

  <!— 水系-路線情報 —>
  <!ELEMENT 水系-路線情報 (対象水系路線名?, 現道-旧道区分?, 対象河川コード*, 左右岸上下線コード*, 測点情報*, 距離標情報*)>
    <!ELEMENT 対象水系路線名 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 現道-旧道区分 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 対象河川コード (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 左右岸上下線コード (#PCDATA)>

  <!— 測点情報 —>
  <!ELEMENT 測点情報 (起点側測点-n?, 起点側測点-m?, 終点側測点-n?, 終点側測点-m? )>
    <!ELEMENT 起点側測点-n (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 起点側測点-m (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 終点側測点-n (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 終点側測点-m (#PCDATA)>

  <!— 距離標情報 —>
  <!ELEMENT 距離標情報 (起点側距離標-n?, 起点側距離標-m?, 終点側距離標-n?, 終点側距離標-m? )>
    <!ELEMENT 起点側距離標-n (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 起点側距離標-m (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 終点側距離標-n (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 終点側距離標-m (#PCDATA)>

  <!— 境界座標情報 —>
  <!ELEMENT 境界座標情報 (西側境界座標経度, 東側境界座標経度, 北側境界座標緯度, 南側境界座標緯度)>
  <!ELEMENT 西側境界座標経度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 東側境界座標経度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 北側境界座標緯度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 南側境界座標緯度 (#PCDATA)>

<!— 施設情報 —>
<!ELEMENT 施設情報 (施設名称?)>
  <!ELEMENT 施設名称 (#PCDATA)>

<!— 発注者情報 —>
<!ELEMENT 発注者情報 (発注者-大分類, 発注者-中分類, 発注者-小分類?, 発注者コード?)>
  <!ELEMENT 発注者-大分類 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 発注者-中分類 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 発注者-小分類 (#PCDATA)>
```

差し替え案

```
<!ELEMENT 工期終了日 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 工事内容 (#PCDATA)>

  <!ELEMENT 工種-工法型式 (工種+, 工法型式+)>
    <!ELEMENT 工種 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 工法型式 (#PCDATA)>

  <!ELEMENT 住所情報 (住所コード+, 住所+)>
    <!ELEMENT 住所コード (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 住所 (#PCDATA)>

<!— 場所情報 —>
<!ELEMENT 場所情報 (測地系, 水系-路線情報*, 境界座標情報)>
<!ELEMENT 測地系 (#PCDATA)>

  <!— 水系-路線情報 —>
  <!ELEMENT 水系-路線情報 (対象水系路線名?, 現道-旧道区分?, 対象河川コード*, 左右岸上下線コード*, 測点情報*, 距離標情報*)>
    <!ELEMENT 対象水系路線名 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 現道-旧道区分 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 対象河川コード (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 左右岸上下線コード (#PCDATA)>

  <!— 測点情報 —>
  <!ELEMENT 測点情報 (起点側測点-n?, 起点側測点-m?, 終点側測点-n?, 終点側測点-m? )>
    <!ELEMENT 起点側測点-n (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 起点側測点-m (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 終点側測点-n (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 終点側測点-m (#PCDATA)>

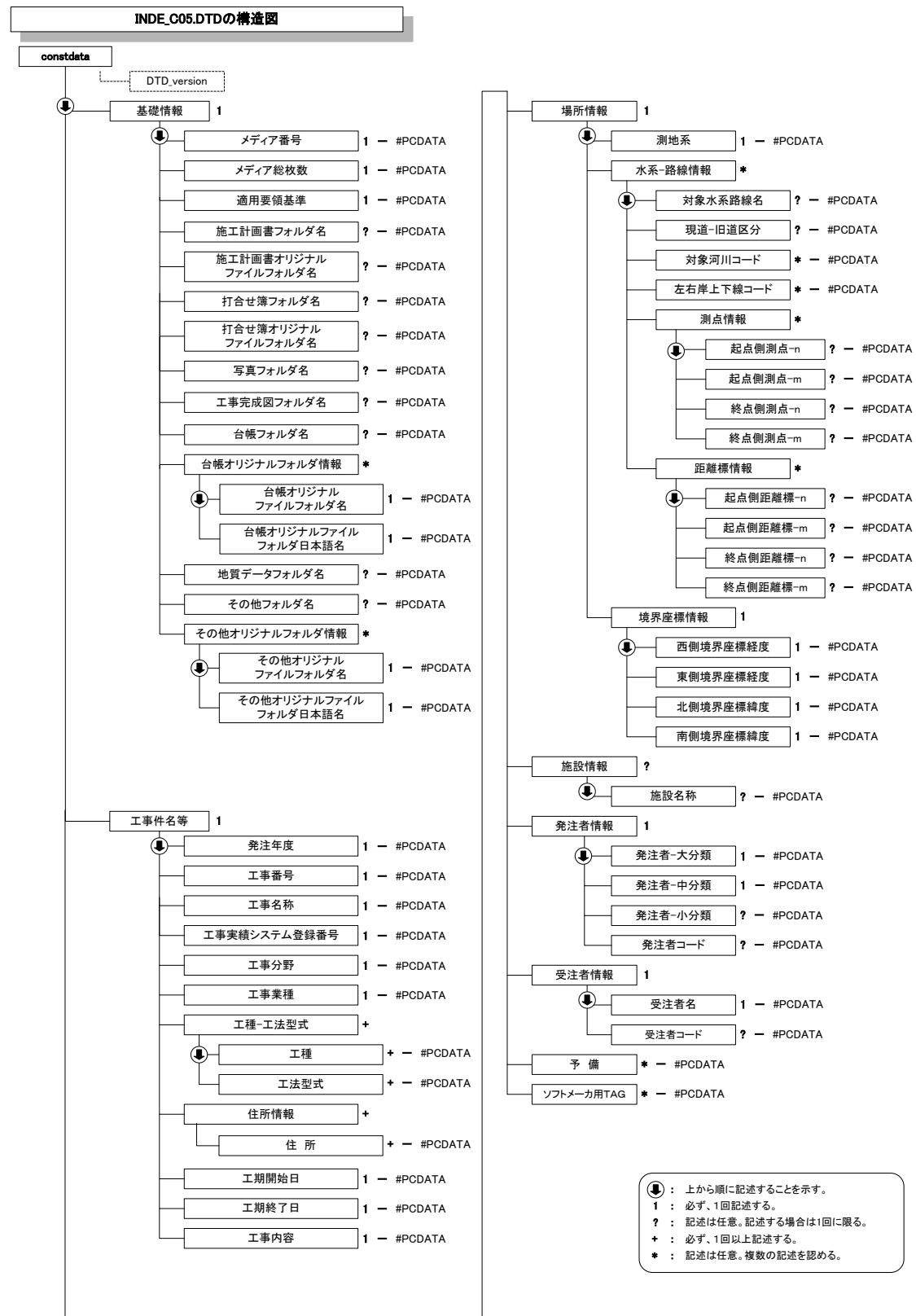
  <!— 距離標情報 —>
  <!ELEMENT 距離標情報 (起点側距離標-n?, 起点側距離標-m?, 終点側距離標-n?, 終点側距離標-m? )>
    <!ELEMENT 起点側距離標-n (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 起点側距離標-m (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 終点側距離標-n (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 終点側距離標-m (#PCDATA)>

  <!— 境界座標情報 —>
  <!ELEMENT 境界座標情報 (西側境界座標経度, 東側境界座標経度, 北側境界座標緯度, 南側境界座標緯度)>
  <!ELEMENT 西側境界座標経度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 東側境界座標経度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 北側境界座標緯度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 南側境界座標緯度 (#PCDATA)>

<!— 施設情報 —>
<!ELEMENT 施設情報 (施設名称?)>
  <!ELEMENT 施設名称 (#PCDATA)>

<!— 発注者情報 —>
<!ELEMENT 発注者情報 (発注者-大分類, 発注者-中分類, 発注者-小分類?, 発注者コード?)>
  <!ELEMENT 発注者-大分類 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 発注者-中分類 (#PCDATA)>
```

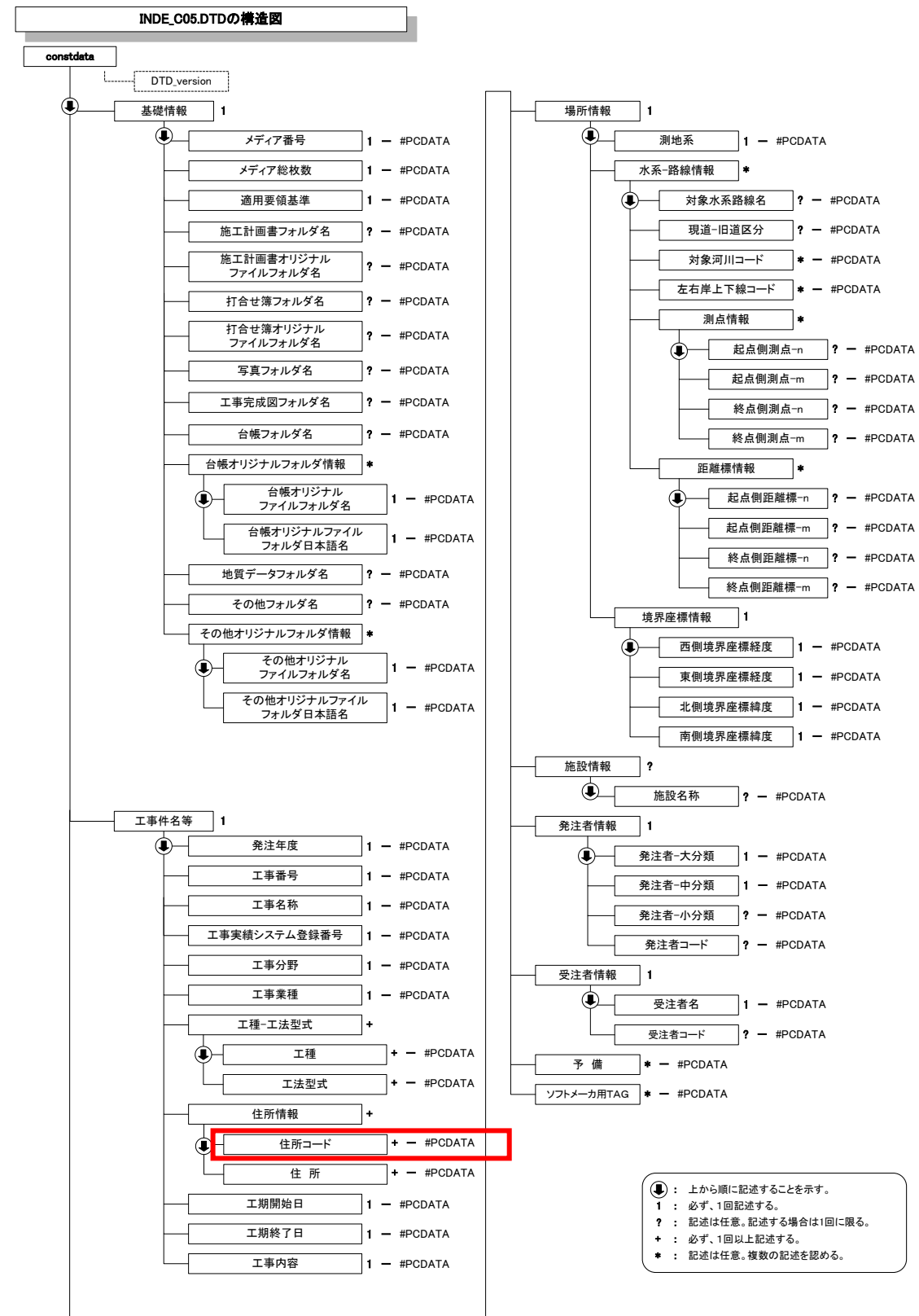
平成 22 年 9 月版



図付 1-1 工事管理ファイルの DTD の構造

付 1-4

差し替え案



図付 1-1 工事管理ファイルの DTD の構造

付 1-4

付属資料 2 管理ファイルの XML 記入例

各管理ファイルの XML を以下に示す。なお、XML ファイルは、電子納品 Web サイト(<http://www.cals-ed.go.jp/>)から入手できる。

(1) 工事管理ファイルの記入例

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE constdata SYSTEM "INDE_C05.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="INDE_C05.XSL"?>
<constdata DTD_version="05">
```

3 行目(<?xml-stylesheet~)は、XML 文書の書式(体裁)を指定する場合の宣言文。書式指定を宣言した場合、XSL ファイルを格納すること。スタイルシートを利用しない場合は、当該 1 行を削除する。

工事管理項目の記入規則に基づき、赤文字の部分について内容を記入する。

```
<基礎情報>
<メディア番号>2</メディア番号>
<メディア総枚数>3</メディア総枚数>
<適用要領基準>土木 201009-01</適用要領基準>

<施工計画書フォルダ名>PLAN</施工計画書フォルダ名>
<施工計画書オリジナルファイルフォルダ名>PLAN/ORG</施工計画書オリジナルファイルフォルダ名>
<打合せ簿フォルダ名>MEET</打合せ簿フォルダ名>
<打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名>MEET/ORG</打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名>
<写真フォルダ名>PHOTO</写真フォルダ名>
<工事完成図フォルダ名>DRAWING</工事完成図フォルダ名>
<台帳オリジナルフォルダ情報>
<台帳オリジナルファイルフォルダ名>REGISTER/ORG001</台帳オリジナルファイルフォルダ名>
<台帳オリジナルファイルフォルダ日本語名>〇〇施設基本データ
</台帳オリジナルファイルフォルダ日本語名>
</台帳オリジナルフォルダ情報>
<台帳オリジナルフォルダ情報>
<台帳オリジナルフォルダ名>REGISTER/ORG002</台帳オリジナルフォルダ名>
<台帳オリジナルファイルフォルダ日本語名>建設材料の品質記録
</台帳オリジナルファイルフォルダ日本語名>
</台帳オリジナルフォルダ情報>
<地質データフォルダ名>BORING</地質データフォルダ名>
<その他フォルダ名>OTHERS</その他フォルダ名>
<その他オリジナルフォルダ情報>
<その他オリジナルファイルフォルダ名>OTHERS/ORG001</その他オリジナルファイルフォルダ名>
<その他オリジナルファイルフォルダ日本語名>維持管理システム登録データ
</その他オリジナルファイルフォルダ日本語名>
</その他オリジナルフォルダ情報>
</基礎情報>
<工事件名等>
<発注年度>2010</発注年度>
<工事番号>201011110123</工事番号>
<工事名称>国道〇号〇〇舗装修繕工事</工事名称>
<工事実績システム登録番号>12345678K</工事実績システム登録番号>
<工事分野>道路</工事分野>
<工事業種>アスファルト舗装工事</工事業種>
<工種-工法型式>
<工種>歩行者系舗装工事</工種>
<工法型式>歩行者系舗装工</工法型式>
</工種-工法型式>
<住所情報>
<住所>茨城県つくば市〇〇3丁目〇〇番地</住所>
</住所情報>
```

付属資料 2 管理ファイルの XML 記入例

各管理ファイルの XML を以下に示す。なお、XML ファイルは、電子納品 Web サイト(<http://www.cals-ed.go.jp/>)から入手できる。

(1) 工事管理ファイルの記入例

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE constdata SYSTEM "INDE_C05.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="INDE_C05.XSL"?>
<constdata DTD_version="05">
```

3 行目(<?xml-stylesheet~)は、XML 文書の書式(体裁)を指定する場合の宣言文。書式指定を宣言した場合、XSL ファイルを格納すること。スタイルシートを利用しない場合は、当該 1 行を削除する。

工事管理項目の記入規則に基づき、赤文字の部分について内容を記入する。

```
<基礎情報>
<メディア番号>2</メディア番号>
<メディア総枚数>3</メディア総枚数>
<適用要領基準>土木 201009-01</適用要領基準>

<施工計画書フォルダ名>PLAN</施工計画書フォルダ名>
<施工計画書オリジナルファイルフォルダ名>PLAN/ORG</施工計画書オリジナルファイルフォルダ名>
<打合せ簿フォルダ名>MEET</打合せ簿フォルダ名>
<打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名>MEET/ORG</打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名>
<写真フォルダ名>PHOTO</写真フォルダ名>
<工事完成図フォルダ名>DRAWING</工事完成図フォルダ名>
<台帳オリジナルフォルダ情報>
<台帳オリジナルファイルフォルダ名>REGISTER/ORG001</台帳オリジナルファイルフォルダ名>
<台帳オリジナルファイルフォルダ日本語名>〇〇施設基本データ
</台帳オリジナルファイルフォルダ日本語名>
</台帳オリジナルフォルダ情報>
<台帳オリジナルフォルダ情報>
<台帳オリジナルフォルダ名>REGISTER/ORG002</台帳オリジナルフォルダ名>
<台帳オリジナルファイルフォルダ日本語名>建設材料の品質記録
</台帳オリジナルファイルフォルダ日本語名>
</台帳オリジナルフォルダ情報>
<地質データフォルダ名>BORING</地質データフォルダ名>
<その他フォルダ名>OTHERS</その他フォルダ名>
<その他オリジナルフォルダ情報>
<その他オリジナルファイルフォルダ名>OTHERS/ORG001</その他オリジナルファイルフォルダ名>
<その他オリジナルファイルフォルダ日本語名>維持管理システム登録データ
</その他オリジナルファイルフォルダ日本語名>
</その他オリジナルフォルダ情報>
</基礎情報>
<工事件名等>
<発注年度>2010</発注年度>
<工事番号>201011110123</工事番号>
<工事名称>国道〇号〇〇舗装修繕工事</工事名称>
<工事実績システム登録番号>12345678K</工事実績システム登録番号>
<工事分野>道路</工事分野>
<工事業種>アスファルト舗装工事</工事業種>
<工種-工法型式>
<工種>歩行者系舗装工事</工種>
<工法型式>歩行者系舗装工</工法型式>
</工種-工法型式>
<住所情報>
<住所コード>08220</住所コード>
<住所>茨城県つくば市〇〇3丁目〇〇番地</住所>
```

付属資料 3 場所情報の記入方法

場所情報に関わる記入方法を以下に示す。

(1) 工事件名等

1) 「住所」の XML 表記例

- 対象地域が 1 市区町村内の 1 箇所である場合

```
<住所情報>
  <住所>東京都港区赤坂 7 丁目</住所>
</住所情報>
```

- 対象地域が 1 市区町村内の 2 箇所である場合

```
<住所情報>
  <住所>東京都港区赤坂 7 丁目</住所>
  <住所>東京都港区新橋 1 丁目</住所>
</住所情報>
```

該当地域の数を繰り返す。

- 対象地域が複数市区町村の場合(該当する住所が全て列記可能な場合)

```
<住所情報>
  <住所>東京都中央区日本橋 3 丁目</住所>
</住所情報>
<住所情報>
  <住所>東京都港区</住所>
</住所情報>
<住所情報>
  <住所>東京都品川区東品川 4 丁目</住所>
</住所情報>
  :           :           :
```

該当市区町村数分繰り返す。

付属資料 3 場所情報の記入方法

場所情報に関わる記入方法を以下に示す。

(1) 工事件名等

1) 住所コード

JIS の各コードおよびその組み合わせ方は、LASDEC（(財)地方自治情報センター）の地方公共団体コードの 6 桁コードの上 5 桁と同一である。下記 URL で公開されているコード表を参照し、該当するコードを記入する。

LASDEC 地方公共団体コード

<http://www.lasdec.nippon-net.ne.jp/cms/1,0,14.html>

2) 「住所コード」と「住所」の XML 表記例

- 対象地域が 1 市区町村内の 1 箇所である場合

```
<住所情報>
  <住所コード>13103</住所コード>
  <住所>東京都港区赤坂 7 丁目</住所>
</住所情報>
```

- 対象地域が 1 市区町村内の 2 箇所である場合

```
<住所情報>
  <住所コード>13103</住所コード>
  <住所>東京都港区赤坂 7 丁目</住所>
  <住所>東京都港区新橋 1 丁目</住所>
</住所情報>
```

該当地域の数を繰り返す。

- 対象地域が複数市区町村の場合(該当する住所が全て列記可能な場合)

```
<住所情報>
  <住所コード>13102</住所コード>
  <住所>東京都中央区日本橋 3 丁目</住所>
</住所情報>
<住所情報>
  <住所コード>13103</住所コード>
  <住所>東京都港区</住所>
</住所情報>
<住所情報>
  <住所コード>13109</住所コード>
  <住所>東京都品川区東品川 4 丁目</住所>
</住所情報>
  :           :           :
```

該当市区町村数分繰り返す。

平成 22 年 9 月版

- 対象地域が複数市区町村の場合(設計図書等の住所で代表する場合)

```
<住所情報>
  <住所>東京都中央区日本橋他地内</住所>
</住所情報>
```

中央区の他、港区及び品川区に該当する場合

- 対象地域が 1 都道府県全域の場合

```
<住所情報>
  <住所>兵庫県</住所>
</住所情報>
```

- 対象地域が発注者の管内全域等の広域に渡る場合

```
<住所情報>
  <住所>中国地方整備局管内</住所>
</住所情報>
```

- 特定の地域に該当しない場合

```
<住所情報>
  <住所>対象地域なし</住所>
</住所情報>
```

(2) 場所情報

1) 「対象水系路線名」の XML 表記例

- 対象地域が特定の水系に位置する場合

```
<水系-路線情報>
  <対象水系路線名>利根川水系</対象水系路線名>
  :
</水系-路線情報>
```

付 3-2

差し替え案

- 対象地域が複数市区町村の場合(設計図書等の住所で代表する場合)

```
<住所情報>
  <住所コード>13102</住所コード>
  <住所コード>13103</住所コード>
  <住所コード>13109</住所コード>
  <住所>東京都中央区日本橋他地内</住所>
</住所情報>
```

中央区の他、港区及び品川区に該当する場合

- 対象地域が 1 都道府県全域の場合

```
<住所情報>
  <住所コード>28000</住所コード>
  <住所>兵庫県</住所>
</住所情報>
```

- 対象地域が発注者の管内全域等の広域に渡る場合

```
<住所情報>
  <住所コード>31000</住所コード>
  <住所コード>32000</住所コード>
  <住所コード>33000</住所コード>
  <住所コード>34000</住所コード>
  <住所コード>35000</住所コード>
  <住所>中国地方整備局管内</住所>
</住所情報>
```

住所コードは、管内の該当地域の数を繰り返す(当該地域の範囲により、県コード・市区町村コードを選択できる)。

- 特定の地域に該当しない場合

```
<住所情報>
  <住所コード>99999</住所コード>
  <住所>対象地域なし</住所>
</住所情報>
```

(2) 場所情報

1) 「対象水系路線名」の XML 表記例

- 対象地域が特定の水系に位置する場合

```
<水系-路線情報>
  <対象水系路線名>利根川水系</対象水系路線名>
  :
</水系-路線情報>
```

付 3-2